

海外ビジネス成功の鍵を握る

「海外単身生活能力」

第6弾

グローバルIQから見る海外における生活力

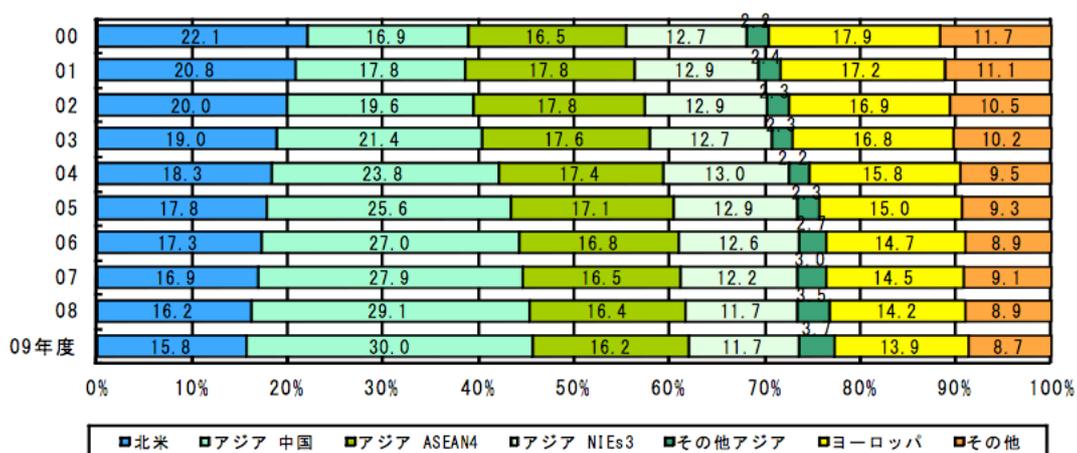
経済産業省の「海外事業活動基本調査結果」をみると、（2009年と最新の数字ではないが）、日本企業の海外進出先として「中国」、「その他アジア」への進出比率が高まっていることがわかる。

昨年の震災、円高の影響もあって直近ではさらにこの数値は上昇しているはずだ。MD.ネットの会員企業においても同様の結果である。特に「その他アジア」とされる赴任先として聞き慣れない国が増えている。

さて、その海外進出に伴い、赴任するビジネスマンは、ほとんどが単身赴任である。自分が海外勤務になることを予想していなかった勤務者が多い。ただでさえ、単身赴任は大変だが、生活インフラが決して良くない国での生活は、相当の自己管理能力の高い資質が必要だ。

食生活、健康状態、オフの過ごし方等、赴任者の「海外で、ひとりで生活できる力＝海外単身生活能力」は、個々のパフォーマンスへの影響はもちろん、事業の成否にも影響を及ぼしかねない。特に日本と生活環境が大きく異なる地域への赴任については、本人の「先行適応（<http://www.md-net.co.jp/globaliq/images/glbicq-1.pdf>）」と同時に、本人さえも気付かない「生活力という資質」について客観的に測定しておくのも重要であろう。

1図 現地法人の地域別分布比率の推移



資料出所：経済産業省 第40回 海外事業活動基本調査結果（2010年7月調査：2009年実績）

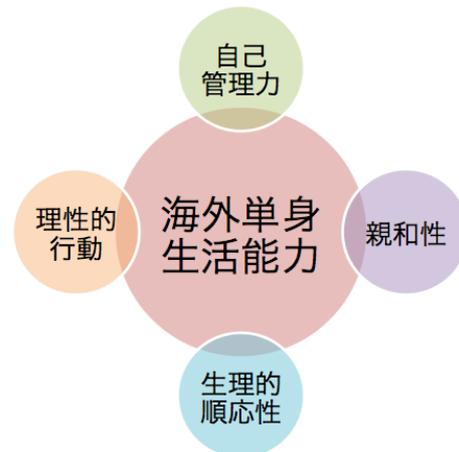
グローバルIQ から「海外単身生活能力」を見る

自分で自分の感情と行動を管理できる力。感情に流されず、目的のために意思を持って自らの行動を選択することができる力。

我々は**グローバルIQ** から右図にあるような4つの軸を用いて、対象者が単身赴任者の場合の適性を分析している。

海外での単身生活を得意とする資質は

- ◆ 自己管理力の値が高い
- ◆ 理性的行動の値が高い
- ◆ 親和性の値が高い
- ◆ 生理的順応性の値が高い



となどの傾向からみている。

赴任前に、この海外単身生活能力の値が低い人は、赴任後、一時的に心と身体のコンディションが崩れることがある。

ただし、体調悪化がある程度事前に予測できるので、本人に生活上の注意を十分に行い、継続的なフォローを行うと、トラブルなくコンディションの維持を行うことができる。

逆に言えば、海外赴任後、体調が不調になる勤務者は、この数値が低いケースが多い。理性的行動／自己管理力の値が低いと、その時の感情に行動が流されやすくなる。お酒の飲み過ぎ、食事の偏り等という行動面に現れる。海外では本人が自覚しない慢性的な緊張感が持続しているため、飲食は感情の不安定さを解消する無意識な行動として出現するケースが多いのだ。飲酒機会が多い地域に赴任する場合、各赴任者のこの傾向を把握しておくが良い。生理的順応性の値の低さは、一見関連していないようにも感じるかもしれないが、順応性が低いと、海外では精神的な不安定さを招き、行動が乱れ、状況依存的になる。

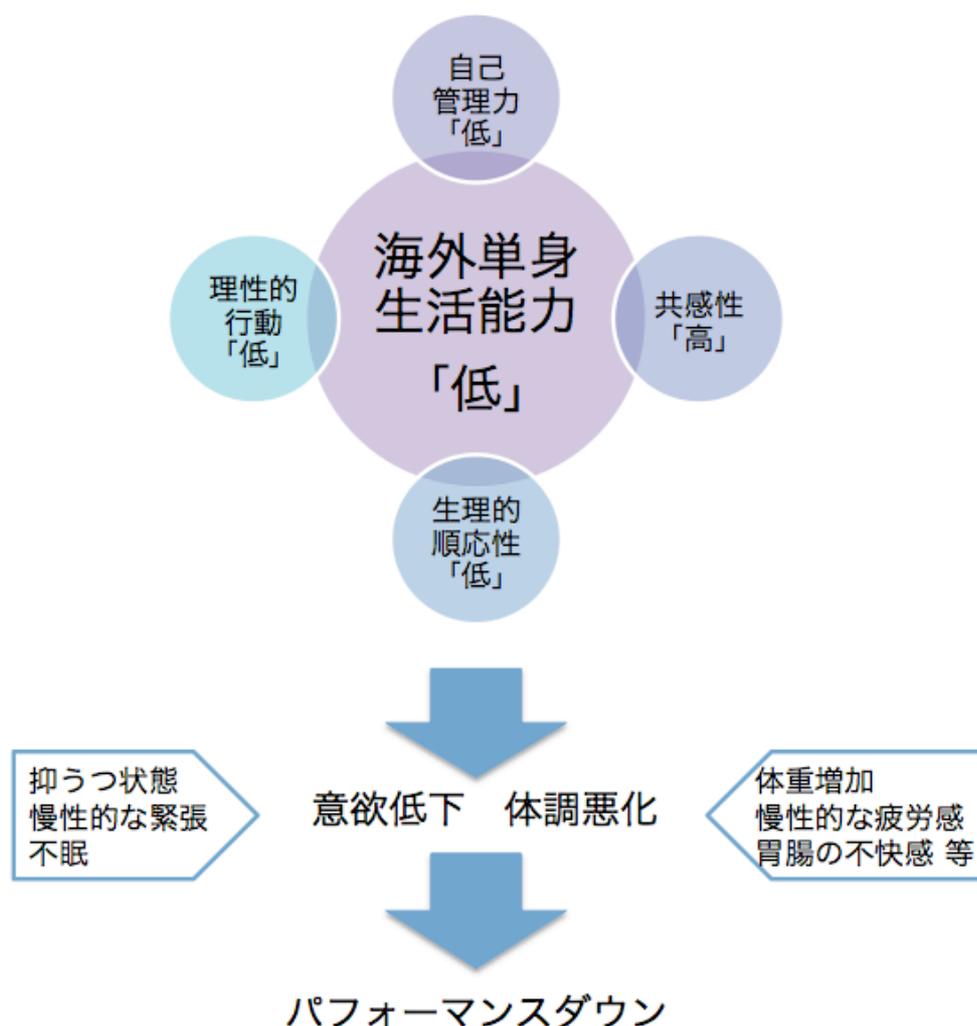
最近、我々が事前のアセスメントで特に注意しているのが、基礎体力の低さが指摘される20代である。長引く不況の影響からか、親元から大学に通い、海外旅行の経験がない若者は少なくない。海外デビューが「海外勤務」となるケースで、この海外単身生活能力の値が低いと、ほぼ間違いなく不適応を起こす。

また、40代半ば以上で、メタボ気味、中国に赴任するようなケース。現地で体重増加はもちろん、血糖値、中性脂肪等の値が急激に悪化しやすい。生活管理の乱れは精

神的なバランスを崩し、体調不良を慢性化させる。当然パフォーマンスも低下する。お酒でストレスを解消し、また生活、心身のバランスが崩れるという悪循環だ。赴任前のアセスメントで、会社も自分も、この「生活能力」の傾向を知っておくだけでも、様々な意味でリスクヘッジになろう。

もしこの数値が低かったら？引き上げることは可能だ。計画性を意識させ、継続的にフォローアップしていくことで、管理能力はあつという間に改善する。

海外ビジネスは日々戦いの連続。万全のコンディションで勝負に臨む力を、この海外単身生活能力は引き出してくれるはずだ。



海外勤務適性検査 **グローバルIQ** はこちらをご覧ください。

<http://www.md-net.co.jp/service/giq.html>

<http://www.md-net.co.jp> お問い合わせ 03-5563-5151